

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400481		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・丸の内		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町丸の内10-31		
自己評価作成日	令和5年6月6日	評価結果市町村受理日	令和5年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvossvoCd=2170400481-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの年間目標を「認知症介護の理解を深める」としキャリアパスを通して知識を高め、担当者会議を通してより利用者様を知り質の高い介護を実践できるよう取り組んでいます
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議や担当者会議で、活発に家族と意見交換が行なわれ、家族の意向や意見を運営や利用者のケアに反映させている。看取り期を事業所で過ごすことを願う利用者と家族が多く、職員研修を積み重ね介護の質の維持・向上に努め、日々の生活から看取り期まで充実したケアを提供している。職員が目標を持ち、モチベーションを維持して従事できるようワーク・ライフ・バランスも考慮している。事業所独自の教材を活用した職員教育やチャレンジングシートを使い、管理者による面談を行いながら、離職者を出さない細やかなサポート体制を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼夕礼で利用者様が物心両面の安心感をもって暮らして頂けるよう、語り合っています。ご本人はもちろんのことご家族様への支援にもつなげていきたいです。	朝礼・夕礼の際に、理念に基づいてケアを振り返り実践につなげている。法人及び各事業所の管理者と職員が理念に基づき、年間目標から予算・事業計画を立案し、評価までを展開する取り組みにより理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り子供会の子供神輿を見せて頂くなど、地域の方とも交流させて頂いています。	事業所は、今年5月に移転している。新しい地域の自治会に加入し、職員がゴミ出しなどの当番制の役割を担当したり、子ども神輿が立ち寄り、利用者にお披露目をしてくれるなど、地域との交流を徐々に進めている。	高齢者や事業所について理解を得てもらえるよう、小・中・高・大学生や地域住民に介護の学習・体験会の開催やボランティアの受け入れなど、事業所から地域に発信する取り組みを考えている。その実現に期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には現状報告、行事報告、ヒヤリハット報告をして、サービス向上にいかしています。	運営推進会議は、6月から対面で開催している。家族、地域包括支援センター、民生委員、介護支援専門員・代表・管理者・施設長等で活発に意見交換し、提案や意見をサービス向上に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の方とは、毎月オンラインにて対応させて頂いています。	市の社会協福祉議会の介護相談員と密に連絡を取り、助言や意見を交わすなど連携をとっている。生活保護を受けている利用者については、市の高齢福祉課担当者と相談や報告、助言を得るなど協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践は全ての職員が理解をしています。転倒の危険性のある利用者様に対し様子を見ながら4点柵の対応。徘徊のある利用者様がみえるので安全の為、施錠の対応をしています。	毎日のミーティングや会議、委員会で学習会や課題検討を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。四点柵が必要な利用者については、毎日状況を分析し、拘束解除に向けて支援に努めている。検討事項や拘束・解除時間などを記録し報告している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については職員も理解しています。職員は毎日思いやりの気持ちを持って利用者様に接しています。	身体拘束やヒヤリハット・事故等について、定期的に研修を実施し、虐待防止の徹底に努めている。毎日のミーティングや2か月に1回実施する虐待防止委員会(接遇委員会)などで、虐待のグレーゾーン(不適切ケア)についても確認し合い、予防に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修を受けており成年後見制度の経験はありませんが、学ぶ機会を持つようとしています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は施設長がご家族様に十分な説明をしています。改善の際は文章にてお知らせしています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の意見・要望を聞くため、連絡票を年2回返信用封筒をつけ送らせていただいています。	毎月、担当者が利用者の状況を書いた「生活便り」と家族等が要望等を記入できる「連絡票」を送付している。返送はないが、運営推進会議や担当者会議参加、面会の際に、管理者や職員が意向や意見を聞き、出された意見は運営やケアに活かしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は個人面談を通して職員の意見・要望を聞き取りそれを運営に反映させています。また業務改善箱(意見箱)を設置しています。	管理者が年2回、職員と個人面談を行い、提案や要望を聴き運営に反映させている。代表や管理者と職員の関係は良好で、直接、意見や要望を聞くことも多い。意見箱に投函された職員の意見や各種委員会で検討された意見や提案も、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は主任会議、個人面談、筆記テスト、実地テスト、自己評価などで個々の努力や実績を把握しています。	管理者は、職員にチャレンジシートを記入してもらい、それをもとに面談を行い理解を深めている。代表は、有給取得や勤務中の休憩スペース、ノーコンタクトタイムの確保などを取ることを推奨している。また、職員のワーク・ライフ・バランスを保ちながら、意識改革と環境整備にも取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は筆記テスト実績テストなどで個々の力量を把握しています。初任者研修、認知症実践者研修など受ける機会を与えています。	代表が教材(テキスト・DVD)を作製し、年2回筆記と技術テストを実施している。管理者は、毎月職員にチャレンジシート(事業所年間目標、職員個人の月目標、振り返り評価、指導を記述)をもとに面談し、職員の状況やニーズを把握しながら人材育成に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は研修などを通じて同業者と交流する機会を作り、参考になることをミーティングや、勉強会や委員会活動を通してサービス向上につなげています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の能力の範囲内のできる事をやっています。利用者様はご自分の仕事として積極的にやっています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話や日常の行動等でご本人の思いを把握することに努めています。	職員は、ケア時のコミュニケーションを通して、利用者の思いや意向の把握に努め、職員間や家族と情報共有しケアの充実を図っている。意向を伝えることが困難な利用者については、表情や反応、家族からの情報を分析しケアに反映させている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年に一度ご家族様と担当者会議を開催し要望等の把握に努めています。	月1回の全職員によるケースカンファレンスと年1回モニタリングを行い、計画の見直しをしている。モニタリングには、家族も参加し活発な意見交換で家族が納得し利用者に必要な介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録や申し送りを活用し状態の把握に努め介護計画にいかしています。	介護記録は、利用者の生活の流れを時系列にし、チェック方式と記述欄を設け、職員が情報共有しやすい様式に改善している。会議、申し送りやミーティングなどで意見交換した内容は記録に残し、現状に即したケアの展開に取り組んでいる。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズに応じてご家族様の協力を仰ぐなどその時々サービスにつなげています。	事業所の移転から3カ月が経過した。コロナ感染症の位置付けも5類となり、活動の再開に向けて取り組んでいる。現在、行政や地域の社会資源について情報収集をしている。今後、社会資源の活用と事業所から地域へ情報発信できるよう計画している。	

岐阜県 グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	藤まつりやバラ公園などへ木曾三川公園等へ出掛けています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受けて状態の把握に努めています。又、入所前からのかかりつけ医を希望の方は継続して頂いています。	利用者と家族に、協力医、または従前のかかりつけ医を継続するかを選択してもらっており、往診や通院により利用者の健康管理を行っている。必要時に、医師及び訪問看護師と連携し支援している。整形外科・歯科の受診は、家族の協力を得ている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院治療が必要となった場合、入院先へ情報提供を行い連携に努めています。	利用者の入院時には、介護支援専門員が「情報提供書」を作成し医療機関と情報を共有している。必要な情報と利用者や家族の意向をもとに、退院先の決定及び退院後の支援計画を立案するなどケアの充実を図っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の診断の元ご家族様、訪問看護と共に会議を開催し方針の確認を行っています。	入居時に重度化や終末期の対応についての指針を説明して同意を得ている。利用者と家族の多くが、事業所での看取りを希望している。看取り期には家族や医師・看護師と連携を図り、職員間のミーティングを重ね支援している。	看取り後のケースカンファレンスを実施し、利用者の経過と実施したケアに加え、職員の不安や葛藤、克服方法などについて体験を振り返り、それをまとめたマニュアルや対策集を作成し、今後のケアに活用されることを期待したい。
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本年度はコロナで中止しています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に自主的に避難訓練を実施しています。	防災委員会を中心に、消防署の指導を得ながら地震・火災・水害の避難訓練を実施している。ハザードマップや避難所の確認を行い取り組んでいる。備蓄品、蓄電池を定期的に点検している。避難食を作り、実食する取り組みも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性やこだわりに合わせて声掛けや対応を職員間で共有し行っています。	職員は、利用者が穏やかな気持ちで過ごせるよう、声のトーンや言葉遣い、おむつが他人に見えない収納の工夫など、プライバシーの保護や人格尊重に取り組んでいる。接遇委員会が中心となって学習会を行い、個別の状態に配慮した支援に取り組んでいる。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ハッキリとご自身で希望や要望など伝えられる方は対応しやすいですが、アルツハイマー型の方は難しいので表情やしぐさで把握するように努めています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日は決まっていますが利用者様の気分体調によって別の日にしたりしています。食事の時間がきても寝ている時は時間をずらすなど対応しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスが休みの時はおやつレクやイベントなどを入れ利用者様に材料を切ってもらったりと一緒にできる支援も取り入れて行っています。	1階に法人の配食サービスがあり、出来立ての食事を提供している。利用者の状態に応じた食事形態への再調理や、配食サービス休業日は利用者の希望メニューを取り入れたり、出前や希望の総菜を買うなど個別対応も行いながら、楽しんでもらっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合わせて食べられる量、食形態にて提供しています。水分補給も確保できるように飲まれない方にはお茶ゼリーなどにして提供しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシや歯磨き剤スポンジ等使用するものを使い分けて介護が必要な方など一人一人の口腔状態に合わせた対応をしています。	食後は、利用者に声かけし、口腔ケアを行っている。自力でケアが可能な人には見守りを行い、出来ない人には職員がサポートし、口腔状態に応じた方法で清潔保持を支援している。半数以上の利用者が総義歯を使用しており、紛失や破損しないよう管理している。	

岐阜県 グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1名の方は昼夜オムツ対応ですが他の方はトイレの一部介助か自立できている方です。一人一人に合ったパットのを使用しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっていますが利用者様のその日の気分体調に合わせて別の日にしたりしています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間、就寝時間は自由です。夜間の良眠を目指しているので日中はなるべく活動を取り入れたりしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人がどんな病気でどんな薬を服用しているか、情報の共有をしています。	定期的に来所する薬剤師から、服薬相談や指導を受け、薬の主作用や副作用などの情報を職員間で共有している。薬ケースへのセットを職員2人でダブルチェックし、利用者内服時に担当職員が3回目の確認をし誤薬の予防に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で作れる作品は一緒に作ったり、パズル、塗り絵、刺繍など一人一人に合わせた支援を行っています。	利用者がやりたいことをやりたい時に行えるよう、居間などに作品作りの材料をセットしたり、洗濯物畳み等も利用者の楽しみになっている。共用スペースや居室には、利用者の作品が飾られ、担当職員と趣味の材料を買いに出かけるなど、個別支援も行っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの為、極力外出支援は控えています。季節の花を見に少し遠出をして気分転換したり、利用者様のご希望に合わせて散歩したりしています。	コロナ感染予防の為、人が密集する場所への外出は控えている。市民の森やバラ園などへの散策で、季節感を味わいながら気分転換が図れるよう支援している。散歩や買い物に行くなど、個別の外出支援にも取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことは自由ですので、1名の方のみご家族様の了承を得て持って見えます。買い物の要望は了承を得て職員が対応しています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くのが好きな利用者様がご家族様、職員に書かれるのでお届けしています。携帯を持っている方が1名みえ、ご自身でご家族様に電話をされています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの庭には季節の花や野菜をプランターにえています。玄関には行事の写真を飾ったりホームには利用者様が作った作品を飾ったりしています。	広い共用空間の天井は高く、ホーム全体が明るい。死角となる場所を最小限とし、利用者が安全に移動・生活ができる構造となっている。利用者の手作り作品を飾り、窓からは庭や景色を楽しむことができるよう環境を整えている。キッチンや食卓、畳スペースなどの家庭的な雰囲気の中で、居心地良く過ごせる空間となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座りTVを見たり畳に腰を掛け利用者様同士会話をされたり居室で過ごされる方もみえ、お好きなように過ごしてもらっています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真やご自身で作った作品を飾ってあったり様々な部屋作りになっています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール全体を見渡せる作りになっており、洗濯ものを洗濯室へ運ばれる方、ご自身で顔そり、爪切りをされる方それぞれの動きを見守っています。		